

八千代市産業振興審議会 会議録

- 1 会議名 令和3年度第2回八千代市産業振興審議会
- 2 日時 令和3年11月18日(木) 10時30分から12時3分まで
- 3 場所 八千代市総合生涯学習プラザ 2階 多目的ホール
- 4 議題 (1) 八千代市産業連携ビジョン(素案)について
(2) (仮称)八千代市観光振興計画について
(3) 各産業の現状について
(4) その他
- 5 出席者 **【委員】** 八千代商工会議所副会頭 飯田明彦
八千代商工会議所専務理事 田中宏行
八千代市商店会連合会監事 保野英男
八千代市農業協同組合参事 小澤俊昌
八千代市園芸協会会長 山崎浩一
八千代市畜産協会会長 高橋秀行
秀明大学観光ビジネス学部長・教授 市川友英
市 民 委 員 橋山 弘
市 民 委 員 鈴木道範

【事務局】 経済環境部長 大澤利和
商工観光課長 春田泰宏
農政課長 余田慎也
観光推進室主査 齋藤岳洋
農政課主査 三橋 朗
商工観光課主査 蛭間 寛
商工観光課主査 佐藤裕次
商工観光課主事 黒澤雄大
- 6 公開又は非公開の別 公開
- 7 傍聴人 3名(定員3名)

事務局（司会：黒澤主事）

定刻となりましたので、これより、八千代市産業振興審議会を開催いたします。私本日司会を務めさせていただきます、商工観光課の黒澤と申します。よろしくお願ひいたします。

まず、最初にお断りさせていただきますが、この審議会は、八千代市審議会等の会議の公開に関する要領の規定によりまして、公開の会議となっております。

事前に会議の日程等を公表し、傍聴することができることとなっております。

また、会議資料、会議録等についても公開の対象となるため、録音させていただきますので、ご了承の程、お願ひいたします。

なお本日、3名の傍聴者がお見えになっております。傍聴される方は、傍聴証の裏面の記載事項を守り、傍聴されるようお願ひいたします。

会議に先立ちまして、経済環境部長よりご挨拶申し上げます。

大澤経済環境部長

はい。経済環境部長の大澤でございます。

本日はお忙しい中、委員の皆様には、産業振興審議会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。本来でしたら、市長がご挨拶を申し上げるところでございますが、あいにく、他の公務が入っており、出席がかないませんので、私からご挨拶をさせていただきます。

初めに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、業績に多大なる影響を受けた事業者、団体の皆様に対し、この場をお借りしまして心よりお見舞い申し上げます。本市でも、4月から、まん延防止等重点措置が適用され、その後緊急事態宣言に移行し、9月末までの5か月あまりにわたって、市民、事業者の皆様には、不要不急の外出の自粛や営業時間の短縮など、感染防止対策にご協力をお願いして参りました。その後は、インフルエンザ等対策特別措置法に基づく協力要請も10月24日に解除され、段階的に対策の緩和がされているところですが、新型コロナウイルス感染の再拡大の可能性も懸念される中、警戒を続けながら、どのような形で経済活動を行っていくか、国などの動向を注視しているところでございます。

さて、本審議会でございますが、八千代市産業振興基本条例に基づき設置した市長の諮問機関として位置付けており、農業、商業、工業、観光の各分野における有識者並びに市民の代表である皆様にご委嘱させていただいているものでございます。

今回、委員の皆様方には、先日送付させていただきました八千代市産業連携ビジョン（素案）についてご意見を伺いたいと思っております。詳細につきましては、後程事務局から説明がありますが、近年の産業を取り巻く環境は、少子高齢

化や後継者不足のほか、新たに新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、大変厳しい状況であります。このような中、今後はポストコロナをはじめ、様々な地域の変化や産業の課題解決に向けた準備を着実に図っていくため、農業者と商工業者とのコミュニケーションを活発化し、双方の強みを生かして、響き合いを促す農商工連携に取り組む新たな産業スタイルに注目し、課題解決のための検討を進め、観光を農商工連携のかけ橋とする八千代市産業連携ビジョンを作成することといたしました。

また、本市の観光振興の元となる観光振興基本方針（案）も、策定いたしましたので、産業連携ビジョンとあわせて、委員の皆様方には忌憚のないご意見をいただき、今後の八千代市の産業の発展に繋がればと考えております。

簡単ではございますが、私の挨拶に代えさせていただきます。

事務局（黒澤主事）

ありがとうございました。続きまして、本日、机の上に配布いたしました資料の確認をお願いいたします。

- ① 次第
- ② 席次表
- ③ 【資料1】八千代市中小企業者等経営支援金のチラシ
- ④ 【資料2】新型コロナウイルス感染症対策臨時相談窓口のチラシ
- ⑤ 【資料3】八千代市観光振興基本方針（案）
- ⑥ 【資料4】八千代市産業連携ビジョン（素案）について（諮問）の写し
- ⑦ 【資料5】八千代市産業連携ビジョン（素案）

以上不足等ございませんでしょうか。

続きまして、皆様の机にございますマイクシステムについてご説明いたします。シルバーのボタンを押しますと、マイクの先が赤く光りますので、そのままお話しください。話し終わりましたら、再度ボタン押す必要はございません。次にお話しする方が、同じようにシルバーのボタンを押しますと、前にお話した方のマイクの赤い光が消えます。これは議事録を作成するためのマイクとなっておりますので、発言する際には必ずボタンを押していただきますようお願いいたします。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発言の際はマスクを着用したままをお願いいたします。皆様のご協力をお願いいたします。

続きまして議事に入ります前に、本日の出席委員は9名であります。八千代市産業振興審議会規則第4条の規定によりまして、半数以上の委員が出席しておりますので、本日の会議は成立となります。

次に、本日の審議会での事務局からの報告や説明につきましては、自席で着座にて行わせていただきますので、ご了承いただきますようお願いいたします。事

務局からは以上でございます。

ここからの進行は会長にお願いしたいと思います。飯田会長よろしくお願いたします。

飯田会長

おはようございます。

本年度第2回目の審議会ということで今回もよろしくお願いたします。

それではお手元の会議次第に則りまして進行して参りたいと思いますのでよろしくお願いたします。

初めに、次第3 報告に入ります。市の産業振興について事務局から報告をお願いたします。

事務局（春田商工観光課長）

商工観光課長の春田です。私から、市の取り組みとして、商業・工業・観光に関する3点の事業報告をいたします。

まず初めに、本日、配付させて頂きました「資料1」をご覧ください。新型コロナウイルス感染症拡大により、経営の安定に支障が出ている中小企業者等に対する支援金の支給を11月1日から開始しています。この事業は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化していることから、昨年度に続き、2度目の実施となっております。昨年は、5月末から10月末までの申請期間中、前年同月比で20%以上売上が減少している事業者に対して、1事業者に1回限り、15万円を合計2,978事業者に対して支援金を支給いたしました。今年度は、昨年度の申請状況を参考に、前年又は前々年の同月比15%以上売上が減少している事業者に対して、1事業者1回限り、10万円を支給しています。申請期間は、11月1日から開始し、来年1月31日まで申請を受け付けています。

次に、「資料2」をご覧ください。昨年に引き続き、八千代商工会議所の協力のもと、「新型コロナウイルス感染症対策臨時相談窓口」を設置いたしました。支援内容は、中小企業相談士により、各種給付金・補助金の制度説明、申請サポート、書類チェック、経営全般の相談等を行っております。相談窓口は事前予約制で、期間は、支援金事業と同様に来年1月末までの予定です。

二つの事業の周知につきましては広報やちよ、市ホームページのほか、八千代商工会議所の会員や金融機関へのチラシの配付やポスター掲示等によって周知していますが、周知が行き渡らないことも予想されます。委員の皆様におかれましては、所属される団体等にも周知していただきますようお願い申し上げます。支援金の対象者は、中小企業者のほか個人事業主として個人農業者も対象としていますことを申し添えます。

続きまして、観光推進室では、例年開催している八千代ふるさと親子祭、八千代どーんと祭及び源右衛門祭を、今年度に限り「八千代市民祭2021」として開催を予定しています。当初は、10月30・31日に開催を予定していましたが、衆議院選挙のほか、新型コロナウイルスの影響を考慮し延期をしたところがありますが、先日実行委員会が開催され、改めて12月11日（土）に開催することが決定いたしました。本日もご出席いただいている団体の皆様にもご協力をいただくこともあろうかと思っておりますので、その際にはよろしくお願いいたします。私からの報告は以上になります。

事務局（余田農政課長）

引き続きまして農政課長の余田と申します。引き続き農政課の取り組み状況についてご報告申し上げます。資料の方は用意しておりませんので、ご了承ください。3点ほどご紹介させていただきます。

1点目は、道の駅についてでございます。道の駅やちよは、国土交通省が令和3年6月11日に防災道の駅として選定をいたしました。防災道の駅は、防災機能の整備や強化を図り、広域的な防災拠点としての役割を担っていくものでございます。防災強化の最初の取り組みといたしましては、本年7月末に道の駅やちよを千葉県が広域防災拠点として位置付けを行いました。既に千葉県のホームページ上に掲載されてございます。道の駅やちよについては現在、国土交通省千葉国道事務所も含めまして、全面ご協力をいただきながら、当市の危機管理課、その他関係各課とともに協議を重ねております。整備関係につきましては、令和3年・4年・5年の概ね3か年で、計画から施設整備までを予定しております。災害時だけでなく、平時においても道の駅の利用促進を目指し、施設の充実を図っていくために、本年11月より防災道の駅やちよ整備検討会を立ち上げました。関係する方々からご意見を伺い、取りまとめて整理をし、令和3年度中に整備の方向性を決定して参りたいと考えます。続きまして以前からご意見・ご質問等のごございました臨時駐車場の件でございます。本年10月末をもちまして、道の駅の「八千代ふるさとステーション」に隣接して工事を行ってございました臨時駐車場整備工事が完了いたしました。この整備により、大規模イベント等における、駐車場混雑等に対する緩和が期待されます。

続きまして2点目でございます。水田再基盤整備事業についてでございます。桑納川地区の35.6ヘクタールにおきまして、令和2年11月20日に、県営土地改良事業として、国の採択を受け事業を進めております。この事業は農地の効率化や生産コストの低減などを目的に、圃場の大区画化・汎用化を図るものでございます。市では、令和2年度の本事業認可を受けるまでに、地元改良区の事業推進委員会が行う、同意徴収や書類作成、関係機関との調整などへの支援を行

って参りました。全体事業費は8億7千万円であり、八千代市の負担は10%の8千7百万円となっております。事業期間としては、令和2年度から令和7年度を予定しております。令和2年度から基準点及び地区界測量及び区画整理実施設計を行い、令和3年度は6路線測量及び土質調査を開始しております。地区界測量においては現在土地の境界立ち会いを土地権利者や道路管理者であるし、河川管理者である千葉県等と行っております。現在の事業費進捗率は10.2%となっております。引き続き、円滑な事業推進のため、千葉県や地元推進委員会等と、連絡調整などを密に行い、引き続き整備促進委員会支援を行って参りたいと考えます。

続きまして3点目でございます。人・農地プランについてでございます。人・農地プランとは、農業者が地域単位で話し合い、共通の問題意識とその解決策を共有し、地域農業の未来設計図を作成するものでございます。今後の地域農業を継続していく上で重要であることから、プランの取りまとめ役として、千葉県や農協等の関係機関や団体との連携及び協力体制を整え、農業委員会とともに支援を行っております。コロナ禍において3つの密を回避しながら話し合いを行うのは困難で、スムーズな話し合いが進められませんでした。そのような中で、尾崎地区の約26ヘクタールにおきましては、早期から話し合いが進められていたこともあり、さらに、今後の耕作状況や地域の課題に関しては、郵送によるアンケート調査も複数回行い、意見の聴取を行うことができました。その内容を取りまとめまして、本年9月末に、「真に地域の話し合いに基づく実質化された人・農地プラン」として完成することができました。並行して、人・農地プランの作成に意欲を示している島田地区、麦丸地区、米本地区につきましては、コロナ禍の影響もあり、意見収集の場が持てないなどの影響がございました。この3地区についても引き続き、地域の負担にならないような進め方で話し合いを促進し、完成を目指して参りたいと考えます。農政課からは以上でございます。

飯田会長

ありがとうございました。只今の件につきまして何かご意見ご質問等がありますれば、よろしく願いいたします。どうぞ、市川委員。

市川委員

観光的側面からお願いですが、先ほど農政課からお話のありました、道の駅の防災拠点の検討会を11月から立ち上げる話ですが、平時における観光的側面の強化推進を是非、議題の中心に添えていただきたいと思います。以上です。

事務局（余田課長）

検討委員会でそのあたりも含めて、話し合いを進めていきたいと考えております。

飯田会長

よろしいですか。次の質疑応答の時にご質問いただいてもよろしいと思いますのでよろしくお願いいたします。

続きまして議題4 八千代市観光振興基本方針（案）につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

事務局（齋藤主査）

観光推進室齋藤と申します。議題の八千代市観光振興基本方針（案）につきまして説明をさせていただきます。

【資料3】八千代市観光振興基本方針案をご覧ください。前回の審議会で、観光振興計画の策定についてご説明したところでございますが、改めて説明をさせていただきます。

八千代市観光振興懇談会など多方面からの意見を参考に八千代市観光振興基本方針（案）を作成しましたので、審議会の皆様にご意見を伺いたいと思います。

基本方針の内容につきましては、1 方針策定の趣旨として、まずは本市が目指す観光振興の元となる基本方針を明確にする必要があることから、令和3年4月からスタートした本市の第5次総合計画との整合性を取った上で、交流人口等の増加を図り、魅力あるまちづくりを進めるために策定するものです。

2 基本方針の柱につきましては、観光振興を推進する上で事業等の計画的実行のため6本の柱を立て今後の事業を進めて参ります。

各柱の説明をいたしますと、

一つ目が、主要観光資源の交流人口の創出、

二つ目が、観光資源の魅力発信の充実とブランド化、

三つ目が、新たな観光資源の発掘、

四つ目が、自然環境を利活用した観光の推進、

五つ目が、近隣自治体との地域間連携、

そして六つ目が観光によるシビックプライドの醸成で、計画の中で、それぞれの柱の具体的な事業展開例を記載することにより、方向性を示していくものになります。また後程の議題で説明いたします八千代市産業連携ビジョンとも事業展開例の中で方向性を示し、整合性を図って参ります。

3 方針実現への施策と計画につきましては、八千代市第5次総合計画の前期基本計画に準じ計画期間を設定し、必要に応じて期間内に見直しを行い、実効性を高めます。本基本方針により、取り組むべき方針を明確にするだけでなく、

基本方針に基づき、紐付けられた観光市振興計画及び事業として位置付け、観光振興に努めて参ります。

また今後につきましては、基本方針に基づく計画案をパブリックコメントし、広く市民の皆様から意見を伺い、修正した後、1月に開催する八千代市観光振興懇談会に提示しご意見をいただき、最終調整を行った上で本審議会に諮り、答申を受け策定となる予定でございます。

以上簡単ではございますが、議題の説明とさせていただきます。

飯田会長

ありがとうございました。それでは只今の説明につきましてご意見ご質問等ございますでしょうか。どうぞ、鈴木委員。

鈴木委員

鈴木です。八千代市の観光がどうあるべきか考えた場合、大上段で考えるよりは、具体的にどうするかということだと思います。いわゆる交流人口のねらいは、過疎地等に來ていただいて定住していただくことで、最近言われる関係人口は関係を作って、何度もリピートしていただいて、また定住につなげていく等の意図があると思いますが、八千代市の観光政策の場合、この交流人口を創出していくことによって、何を目指していくかについてお考えがあったら伺いたいです。

事務局（齋藤主査）

経済環境部として、交流人口をふやすことで、地域経済の活性化を図ることを目的の一つにしております。

飯田会長

どうぞ、鈴木委員。

鈴木委員

この後の連携ビジョンでも資料に書かれていますけれども、今ご説明があったのは主たる目的で、地域経済活性化は、來ていただいてお金を落とさせていただいて、関連する事業者が儲かるという趣旨だと思いますが、いろんな連携によって住んでいただく、或いは市民が関わってくることによって、八千代市の農業はこんなすばらしいというシビックプライドの醸成等、何か多面的な目的があると思います。ですから実際に検討していただく時は、そのあたりも踏まえて検討していただければと思います。以上です。

飯田会長

ありがとうございます。市川委員どうぞ。

市川委員

私から考え方を述べたいと思います。確かに今は関係人口という言葉が使われ始め、交流人口にかわる言葉として定着しつつありますが、関係人口は言うは易く行うは難しです。まずは交流人口の創出を目指しながら、そのコアの人たちに、関係人口に踏み込んでもらう時に、新たな観光資源の発掘、県民自体の地域間連携又はシビックプライドの醸成に紐づいていくと思います。

特にこの（５）近隣自治体の地域間連携の中で、約２００万人の近隣人口の密接なリピーター化をねらって、先ほど鈴木委員からもありましたように、多面的な交流をしながら、八千代市の発展に寄与する方向になると思っています。

私の方は以上です。

飯田会長

ありがとうございます。今いただきました貴重な意見を参考に計画を作っていただければと思いますのでよろしくお願いします。

他にご意見ご質問ございますでしょうか。関連していることでも結構です。市川委員どうぞ。

市川委員

今回のこの事業連携の趣旨が、観光でかけ橋を作るということになっておりまして、少し補足をしたいと思います。例えば、今回お話のあった基本方針の柱の、（３）新たな観光資源の発掘では、工業団地での工場見学等の産業観光に類するもの、或いは（４）自然環境を利活用した観光の推進においてグリーンツーリズム、農業体験のさらなる強化推進に紐づいていくと思いますので、その意味でも、今回の観光振興基本方針は、産業審議会の今後の進む方向に則っていると思っております。以上です。

飯田会長

ありがとうございます。是非業者との連携をより観光に繋げられるように作っていただければと思いますのでよろしくお願ひします。

他に何かございますでしょうか。よろしいですか。それでは次に移ります。続きましては議題１ 八千代市産業連携ビジョン（素案）についてです。

なお八千代市産業連携ビジョン（素案）につきましては事前にお知らせしました通り、本年１０月の２５日付で、当審議会に意見を求められております。

詳細につきましてはこの後、事務局から説明がありますのでよろしくお願いたします。

事務局（佐藤主査）

事務局から、議題1「八千代市産業連携ビジョンについて」説明させていただきます。

まず、7月の審議会で骨子案の説明をさせていただいておりましたが、この度、ビジョンの素案を取りまとめました。委員の皆様には事前に資料を送付させていただいておりますが、資料4にありますとおり、令和3年10月25日付けで、本審議会の意見を伺いたく諮問をさせていただいております。

では、八千代市産業連携ビジョン（素案）をご覧ください。まず、目次をお開きください。全体の構成は、第1章から第5章までとなっております。

1ページをご覧ください。まず策定の背景を説明いたします。本ビジョンの前身には、平成24年4月に策定された「八千代市第3次産業振興ビジョン」があります。このビジョンは八千代市産業振興基本条例に則り、そして本条例に位置づけられた、八千代市産業振興審議会の審議を経て策定されたものです。その後、同ビジョンの策定から10年が経過し、本市の人口動向についても令和7年をピークに人口減少に転じることが予想されるなど、産業を取り巻く環境は大きく変化しており、新たな課題に対応した取り組みが求められています。このことから、農業・商業・工業・観光といった本市の産業が一体となり、八千代市産業振興基本条例が基本方針としている「産業の振興は、市・事業者・産業経済団体及び市民が協力して推進する」を実現するための指針として、八千代市産業連携ビジョン（素案）を策定いたしました。

次に本ビジョンの位置付けですが、先程もご説明したとおり八千代市産業振興基本条例第3条の基本方針が目指す方向性を示すものがビジョンであると考えています。次にビジョンの期間ですが、本市が目指すまちづくりの基本方針である八千代市第5次総合計画との整合性から、令和10年までを計画期間といたしました。次に計画策定体制は、産業振興審議会において意見を聴取すると共にパブリックコメントを実施し、広く市民等の意見を聴取いたします。

次に3ページ SDGsへの取り組みについてご説明します。国連サミットで採択された国際目標である持続可能な開発目標（SDGs）は、農業をはじめ産業に対しても持続性のある生産やサービスの向上が重要視される時代となっております。産業連携ビジョンでは、ゴール2「飢餓をゼロに」、ゴール8「働きがいも・経済成長も」、ゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、ゴール15「陸の豊かさを守ろう」の4つのゴールを主な目標として取り組みをします。こちらは、市の上位計画でもあります八千代市第5次総合計画にも沿った内容

になっております。

次に4ページをお開きください。「第2章 八千代市の現状と課題」につきましては、本市各産業の基本的な情報になっております。情報につきましては、ビジョン策定の最終段階で最新のデータがある場合は差し替えをいたしますので、素案での数値と若干変更になることが考えられます。

次に15ページをお開きください。「第3章 八千代市の産業連携構想」になります。既に人口減少時代に突入した我が国が持続的な経済成長を続けるためには、各産業が一体となって新たな強みや新たな付加価値を作り出さなければなりません。また現在、世界は新型コロナウイルス感染症拡大による深刻な経済危機の中にあり、我が国そして地域経済にとって困難な時期であることは疑いありません。そのような中、本市でも新たな挑戦へと踏み出すことが重要であり、問題解決策のひとつとして「産業連携」の取り組みを新たなビジネスチャンスへとつなげるために「農商工観の連携により相乗効果を得る」ことをビジョンの目標に掲げ5本の施策の柱を基本として産業連携を進めてまいります。

まず施策の柱①「産業間のコミュニケーションの活性化」についてご説明いたします。これまでの生産者だけ、商工業等を営む事業者だけでは開発・生産することが難しかった商品・サービスを連携によりお互いの「技術」や「ノウハウ」などの強みを持ち寄って生かすことにより、新たなものを創り出し、市場で売れる商品・新しいサービスの開発につなげることで、売り上げや利益の増加を目指します。そのためにそれぞれが持つ経営資源を有効に活用し、お互いが共存共栄を目指すパートナーとして尊重し、顔の見える関係づくりを築くための「産業間のコミュニケーションの活性化」の取り組みを行います。具体的な取り組みとして、他業種の意見を広く聞くための意見交換会の開催や、相互理解を深める取り組みを行います。また事業者間ネットワークの醸成として、生産者と事業者がお互いの経営の強みを活用できる関係構築の取り組みを行います。

次に施策の柱②「地域産業資源の活用」のご説明をします。地域産業資源とは地域の強みとなる産地の技術、農産物、観光資源を指しており、本市においてもニンジンなどの野菜をはじめ酪農による生乳、工業団地における工業製品のほか、新川を中心とした豊かな自然などの地域産業資源が多くあります。産業の活性化を図る上で地域資源を活かした産業特産品や新商品開発は非常に重要な要素です。とはいえ農業・商業・工業・観光それぞれの事業者が単独で開発することは簡単ではありません。そのため、各産業が垣根を越えて連携、協力しながら地域産業資源のブランド確立につなげる環境づくりのため「地域産業資源の活用」の取り組みを行います。具体的な取り組みとして、魅力ある新たな商品・サービス・販路開拓に向けた協働として、連携による商品やサービスに安心・安全な付加価値をつけ販路開拓に向けた取り組みを行います。次に祭りやイベント

の活用による地域力の強化として、新川を中心とした豊かな自然、祭りやイベント等の地域資源を最大限に活かし、シビックプライドの醸成に取り組みます。

次に施策の柱③「既存施設等の活用」のご説明をします。本市の市街地は市域南部を東西に走る京成沿線から拡散し、昭和30年代から駅を中心に商店街が形成されてきました。その後昭和45年頃から米本団地、高津団地、村上団地などの大規模住宅団地が造成され、一気に人口が増加し、付随して商店街も順次形成されてきました。その後郊外への大規模小売店舗の出店やリアル店舗とネット販売の競争などの商業構造の変化により、小規模小売店舗にとって厳しい業況になってきています。しかしながら市内には、道の駅やちよのように農業の拠点、地域防災など、多種多様な役割を持ち、現在も多くの人を集める施設も存在しており、産業連携を推進するためにも、既存施設等の魅力を強くアピールし、産業連携に繋がるための取り組みを行います。具体的な取り組みとしては、商店街、道の駅やちよ等の活用として、立地や知名度といった利点を活用した取り組みのほか、広報、報道、集客施設を活用した広報活動として、観光アプリや、様々な媒体を積極的に活用し、産業連携の魅力を発信するPR活動に取り組んでまいります。

次に施策の柱④「後継者対策」のご説明をします。国のデータによりますと、日本では全事業者の99.7%が中小企業といわれています。近年、全国的に地域経済や雇用を担う中小企業の多くの経営者が後継者不在であるといわれ、農業経営者においても高齢化や離農が進んでおり、その約半数の後継者が未定といわれています。事業を継ぐことはその事業の将来に期待が持てる状態にする又は状態にできる可能性が肝要であるとともに、後継者育成の機会を作る必要があり、計画的に取り組む必要があります。

そのようなことから、「後継者対策」の取り組みを行います。具体的な取り組みとしては、事業承継による経営の安定化として、各種支援機関や専門家を活用した取組みを行います。また、経営力の強化として、連携を通じて人材育成を進め、経営力強化に取り組んでまいります。

次に施策の柱⑤「各種支援制度の活用」のご説明をします。2008年5月、農商工等連携促進法が施行され、各産業が有機的に連携し、それぞれの経営支援を有効に活用して行う事業活動を促進し、経営の向上及び経営の改善を図ることを目的に、国や県などのほか各種関係機関による支援が行われています。そのようなことから、各種支援措置の活用で、産業連携に関して、専門家による専門的なアドバイス・専門家の派遣支援や信用保証協会による保証枠の拡大などの支援が受けられることから、各種支援制度の活用に向けた取り組みを行います。具体的な取り組みとしては、関係者が一体となって、支援事業採択に向けた事業計画の策定に取り組みます。また各種助成制度の活用として、各種助成制度の積極

的な活用で、事業の円滑化に取り組みます。

このように「農商工観の連携により相乗効果を得る」ことをビジョンの目標に掲げ、5本の施策の柱を基本として、産業連携を進めてまいります。

次に20ページをご覧ください。「第4章 ビジョンの推進」です。ビジョンの策定にあたり、今回産業振興審議会の意見を聞くために諮問をさせていただきました。推進体制につきましては、農政審議会や観光振興懇談会のほか、産業政策推進委員会・部会といった庁内体制との整合性を図りながら推進してまいります。また、12月6日から1月7日までパブリックコメントを実施し、広く市民等の意見を伺う予定です。その後本日の審議会、パブリックコメントでいただいた意見について市の考え方をまとめたものを審議会で報告させていただきたいと考えております。

最後になりますが、21ページ「3 進行管理」をお開きください。本ビジョンは、各産業が目指す方向性、共通の行き先を示すものであり「農商工観の連携により相乗効果を得る」をビジョンの目標として5本の柱により施策を推進して参りますが、数値目標を立てた進行管理につきましては個別計画で示すものとします。また産業政策推進委員会・部会において各産業の情報共有を諮ると共に、定期的に本審議会で報告を行うことといたします。

22ページからの第5章につきましては資料編となっており、条例や規則、審議会委員の名簿、産業連携に関するアンケート結果等をまとめたものになっております。

以上で、八千代市産業連携ビジョン（素案）の説明を終わります。忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしく願いいたします。

飯田会長

ありがとうございました。それでは、只今の説明に差しまして何かご意見ご質問がありますでしょうか。保野委員、お願いします。

保野委員

商店街の代表として、お話したいと思います。ビジョンにおいて予算はありますか。具体的に言いますと、今、商店街は空洞化、空き店舗が結構あり、衰退しております。大型店舗の出店があり勝田台、八千代台、どこの商店街も苦戦していると思いますが、予算があれば、その空き店舗に農業、酪農、観光に関わるもので販売できるものは販売、アピールができるような場を設けていただいて、道の駅だけでなく、さまざまな業態の人が常駐する等、いろんなアピールができると思い、予算が取れるかどうかお聞きします。

事務局（佐藤主査）

ビジョン関連の予算について要望はしておりますけれども、最終的な確定は議会が終わってからになります。全てを同時には進められないため、始めは施策の柱の1 産業界のコミュニケーションの活性化に取り組みたいと考えています。例えば、中小企業診断士等の専門家をお呼びして、講演会等で皆さんの顔合わせをする場を設け、その中で空き店舗の活用等の話が進めばと考えております。以上です。

飯田会長

保野委員，よろしいですか。

最初は徐々に連携の関係を作っていくことから始めて、最終的には具体的に商店街の空き店舗利用等で予算付けをしていくということで、少しずつ積み上げて形にできればと思いますのでよろしくお願いします。他に何かご意見ご質問等ございますでしょうか。

鈴木委員

まずビジョンの目標の表現ですけれども、「農商工観の連携による相乗効果を得る」はいわゆる連携そのもののことを言っていますが、その下の文章を見ると、新たなビジネスチャンスへとつなげるためと書いてあるので、表現を直す余地があれば、「農商工観の連携による新たなビジネスチャンスにつなげる」という方が、次に進めるイメージが出てくると思いました。

あと、ビジョンの連携の範囲でしょうか。おそらく農業，工業，商業がこれまで縦割りの的にビジョンを作ってきた一方で産業構造が変わってきているから、連携して新しいものを作る趣旨だと思いますが、その場合の連携の対象について、消費者目線で新しい商品を開発し、付加価値をつけて売ることが一番重要なポイントだと思います。アップルのスマートフォンの話で、企画はカリフォルニアでやって部品は全世界から調達して売って儲けているというようなビジネスモデルが必要だと思います。その点で、今の産業を高度化するようなサービス産業，支援産業といったものが不可欠と思っています。

資料の6ページを見ていただくと、RESASの売上高大分類があり、右隅の②が学術研究専門技術サービス業，③が情報通信業とありますが、産業の高度化にあたって、これらが極めて重要だと思います。ですから、広く言えば商業に入るかもしれませんが、高付加価値化して、収益を上げる仕組みを作るため、是非支援するサービス産業を位置付けた方がいいのかなあというふうに感じました。

それから消費者目線，或いは産学官連携でも産学官金，いわゆる金融機関と連携する等の，様々な連携パターンがあるので、既存の産業間の中だけの連携であ

ればそれでいいですけども、連携の範囲を業種も含めて幅を広げられたらと思います。30ページでのアンケートで、開発した場合の販路について、「考えていない」が一番多くなっています。これは作ったものを売るという発想なので、もっとマーケットインを徹底した方がいいと感じました。

それからもう1点ですけども、先ほど保野委員から商店街のお話があって、高津団地の近くで最近京成ストアが撤退して、高齢者や外国人をはじめ非常に多くの皆さんが困っていて、定期的に軽自動車で売りに来るとはいえ台数もすごく少なくて買いたい時に来てくれないという問題があります。撤退に対して行政が関与して、支援する余地は十分あると思います。少子高齢化がどんどん進むということもあり、いわゆる買い物弱者問題に、是非とも対処していただきたい。例えば、そこを更地にしてキッチンカーや軽トラのような車がたくさん集まって、何か商売するような業態、仕組みがあります。建物を建てるとなると大変なので、暫定措置でも構わないので、困ってらっしゃる方、近くにあっても実際高齢者には歩くのが大変な方もいらっしゃるの、個別事業の話ではあります。17ページの既存施設等の活用等で是非考慮していただきたいと思います。以上です。

飯田会長

多岐にわたる貴重なご意見ありがとうございます。これにつきまして事務局から何かございますか。

事務局（佐藤主査）

ビジョンの目標につきましては、持ち帰り検討させていただければと思っております。

次に、ビジョンの範囲ですけども、今この場にも各産業の代表の方に来ていただいております。市民の方も来ていただいておりますが、今後も取り組みをする際には、市民の意見を聞けるような形で進めて参りたいと思っております。市民委員の方にもご協力いただくとお思いますので、よろしく願いいたします。

高津団地の件ですけども、先日私どもも現地を確認いたしました。今のところ更地にする予定だと伺っております。また、週に何回か軽自動車で売りに来ること聞いております。庁内でもそのような取り組みについて意見交換する場があります。その中で今いただいた貴重なご意見も発信していきたいと思っております。

飯田会長

ありがとうございます。それでは田中委員、どうぞ。

田中委員

八千代市の産業連携構想で第3章に施策の柱として、16ページに「産業間のコミュニケーションの活性化」と載っており、今まで農商工連携と言われてきましたが、実際にやっぱり農業と商工はお互いにコミュニケーションを図る場が非常に少なかったと思います。産業まつりでは、農協の青年部や婦人部が中心になり、一緒にお祭りを作っていく共同作業をやったことがあります。実際に農商工連携の中でブランドの品物を作っていく形の話は今までできませんでした。そういう意味で、産業間のコミュニケーションの活性化で、農協の園芸協会をはじめ様々な協会を含めて、商工も一緒になって意見交換の場を作って、お互いに相互理解を深めていくことは非常に重要だと思いました。是非この取り組みを進めていただければと思います。それから、地域産業資源の活用で、産学官共同ネットワークを会議所が作りまして、実際に今事業として、八千代高校家政科の皆さんと市内のパン屋さんを中心に、ニンジン、キウイ、ネギ等の八千代の農産物を使って、高校生が考えた新しいパンを販売するやちパンプロジェクトを行っています。その中で、個々のパン屋さんと農業者との間のコンタクトはありますが、それを組織的にどうするかがこれから問われていくと考えます。以上です。

飯田会長

ありがとうございます。今のご意見につきまして事務局、よろしいですか。

はい。その他、ご意見ご質問はございますでしょうか。

橋山委員

上高野では、つい最近も三井不動産の大きな物流センターができて、今度また工事が始まっている、八千代ゴルフクラブの裏の保品のところに約8万坪の物流センターができると思います。もともとの宅地から用途を変え、商業施設もできるという話も聞いています。八千代市は先ほどの資料にもありますが、製造業の比率が高い市ですが、物流は今、自動化、デジタル化が進んでいて、最先端の技術が導入されてきていますので、工業や商業の連携の中においても大きな核になるのではと感じています。先ほどの道の駅の災害時の活用の話もありましたが、基本的に物流センターは、災害時に活用できますので、活用の幅が広がればと思っています。流山市では、日本最大級の物流センターができます。中にはカフェテリア、育児施設などもあり、地域の方々も使え、また、そこには宅配サービス事業者も入りますので、災害があった時の地域の物資供給の起点として活用できます。八千代市でも相当増えて来ている物流業を産業の一つの 카테고리として見ていく必要があると思っています。それが一点です。

あと、市民の目線からということで、先日佐倉市の主催で、産業、農業、商業のイベントがあって、多分八千代市も以前あったと思いますが、市が大々的に宣伝をして、シャトルバスを運行するなどしていました。八千代市も是非、目に見えるような形で活動をやっていただきたい。あとユーカリが丘のレストランでは、すべてユーカリ地域で採れた農産物を使って料理を地域の方々に提供していると、去年のテレビで取り上げられていました。八千代市では、ロックアイス、小久保製氷と、千葉ジェッツがコラボして体育館を作り、興真乳業がそこに乗っかって商品を開発しているといったコラボレーションが、目に見える形で出て来ると、活動が動いているのが非常に分かりやすくなると思います。計画は当然PDCAで回していくと思いますが、是非目玉になるものを作って進めていただければと思います。私からは以上です。

飯田会長

ありがとうございます。今のご意見につきまして事務局、よろしいですか。
はい。その他、ご意見ご質問ございますでしょうか。市川委員どうぞ

市川委員

産業連携ビジョンの中で、先ほどからの話によると、観光をかけ橋とすることですけれども、1から5の中で、本当にかけ橋になっているのか少し懸念されます。多分、それぞれにまぶしているとは思いますが、本当に観光が接着剤のような新たな価値を見いだすものになり得るのかという、非常にチャレンジングな話なので、ぜひ施策の1の柱の1「産業間のコミュニケーションの活性化」の意見交換会の場で、観光の事業者にしっかりと出席していただき、多様な意見を集めてもらえたらと思います。よろしくをお願いします。

飯田会長

ありがとうございます。意見交換会の開催は是非とも力を入れてやっていただきたいと思います。よろしくをお願いします。他、何かございますでしょうか。

高橋副会長

先ほどの市川先生の意見に関連しますが、次の産業振興審議会の時には、観光協会の会長も、メンバーに入るようお願いしたいと思います。

飯田会長

ありがとうございます。事務局の方で検討をお願いできればお願いします。他にごありますか。どうぞ、鈴木委員。

鈴木委員

一つ言い忘れました。いわゆるSDGsへの取り組みですが、例えば部署ごとにSDGsの何番をやっているという単なる当てはまりに終わってしまうようなケースがあります。具体的にこれから個別の事業を考えていくときに、これを意識して考えるという意味なのか、連携ビジョンにSDGsが入っている意味合いを教えてくださいたいと思います。

事務局（佐藤主査）

SDGsは17のゴール、169のターゲットということになっておりますが、この中で4つ挙げさせていただいておりますので、個別に説明を加えさせていただきます。

まず、ゴール2「飢餓をゼロに」で、文章を見ますと「飢えをなくし誰もが栄養ある食料を十分に手に入れられるよう、地球の環境を守り続けながら、農業をすすめよう」とあります。」その中で主なターゲットといたしまして、2-1「2030年までに飢えをなくし、貧しい人も、幼い子供も誰もが一年中、安全で栄養のある食料を十分に手に入れられるようにする。」

ゴール8「働きがいも成長経済成長も」で、ターゲットとしまして、8-2「商品やサービスの価値をより高める産業や、労働集約型の産業を中心に、多様化、技術の向上、イノベーションを通じて経済の生産性を上げる。」8-3「働きがいのある人間らしい生活を増やしたり、中小規模の会社の設立や、成長を応援する。」

ゴール9「産業と技術革新の基盤を作ろう」の目標のターゲットとしまして9-2「誰も取り残されない持続可能な産業化を進めて、2030年までに、それぞれの国の状況に応じて、雇用と国内総生産に占める割合をふやす。」ですとかその実現のための方法として、「様々な産業が発展したり、価値のある商品をつくり出したりするため、政策を整えることによって、技術開発や研究イノベーションを支援する。」

ゴール15、「陸の豊かさを守ろう」で、特に農業はそれそのものが自然環境を維持する側面がありますので、陸上の生態系と、内陸の耐水淡水地域の生態系及びそれらがもたらす自然の恵みを守り、回復させ、持続可能な形で利用できるようにする。

今後はこの17のゴール、169のターゲットの進捗状況を図るために約230の指標がございますので、その仕様を参考にしながら、各産業と連携しながら取り組んで参りたいと考えております。

鈴木委員

わかりました。今後、検討していく際にこういったものを念頭に置きながら、市役所の目標でもあるのでSDGsが入っているということですね。

連携ビジョンであることを考えれば、ゴール17のパートナーシップはそのものと思ったので、入る項目ではないかと思いました。以上です。

飯田会長

ありがとうございます。それでは大分時間も過ぎましたので、本日いただきました意見につきましては、事務局で整理したものに対して、審議会としての内容を確認した後、答申することとなります。本日は皆様から大変貴重な意見を多くいただきましたので、これをもちまして意見を整理しまして、八千代市産業連携ビジョン諮問案件に関する答申（案）を作成しまして、次回の審議会で報告することにしたと思います。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

続きまして次第5、その他に移ります。

先ほどもお話がありましたが現在3度目の緊急事態宣言も解除され、飲食店などに対する協力要請も10月24日までで終わり、国も段階的に対策の緩和をしているところでございます。しかしながら、新型コロナウイルスの再拡大の懸念もあり、すべてをコロナ前の状態に戻すまでにはまだ時間が要すると感じております。毎回恒例となりましたが、現在委員の皆様が属する産業の現状をご報告いただきたいと思います。また市民委員の皆様におかれましては、重複するところもあるかと思いますが市民目線でのご意見をいただきたいと思います。

それでは毎回恒例ですが、田中委員からよろしいですか。

田中委員

それではコロナの影響を話していきたいと思います。

実際にコロナの影響で会議所の会員も脱会が多く、中身を見ると廃業が非常に多くなっている状況です。4月から10月までの7か月の脱会が75あり、そのうちの62件程、約88%位が廃業です。特に飲食店は影響が非常に大きいです。ただ飲食店については去年の12月から10月まで感染拡大防止対策協力金が出ており、これで事業を繋いでいる業者が非常に多いです。1人か2人で営業している飲食店には非常に助かる協力金でしたが、事業を多く抱えている飲食店は協力金では足りない状況です。営業時間もコロナ前に戻ってアルコール、カラオケ自粛も解除されたわけですが、夜の営業をやっているところになかなか客足が戻っていない状況でございます。客が戻るかどうかを非常に心配しており、客が戻らない場合には、廃業せざるを得ないという業者も多いです。

それから、最近ガソリン価格がかなり高騰してしまして、特に運送業界が影

響を受けていますけれども、5月ごろに130円だった軽油も今は148円とかなり上がってきて、利益を圧迫している状況で、それを運送価格に転嫁できないということで非常に厳しい状況です。あと、トラックを購入したくても半年以上、場合によっては1年近くトラックが買えない状況もあるみたいです。物流の問題、鉄鋼が非常に不足している問題等があるみたいです。

建設業協会については、住宅の着工件数はコロナの前後でさほど影響はないですけれども、リモートワークの増加と戸建ての購入、それからリフォームの需要が非常に増えている中で、先程と同様、木材、鉄、アルミ等の原材料価格が高騰し、収益が厳しく販売価格を上げざるを得ない状況です。また、建設関係は職人が非常に不足しており、若手がないのが悩みだと聞いております。

それから工業関係で言いますと、鉄アルミ等の原材料、石油製品が値上がっている中で、八千代は鉄工業や金属製品の製造の会社が多いので、非常に利益が低下しているという話がございます。コンビニ用弁当を作っている食品製造関係の製造業の会社も多いですけども、食品の関係の小麦、食料油等の値上げ、それから運送費の値上げ等もあってですね、利益の確保が大変ということでございます。広域で色々なものが値上がっていて、それを価格に転嫁するのがなかなか厳しい状況が各業界で出てきている状況です。以上です。

飯田会長

ありがとうございます。続きまして、保野委員、お願いいたします。

保野委員

先ほど言いましたように商店街含めた商業は大変困窮してしまっていて、これから色々な業種と連携して、何か価値を見出していただけたらと思います。

飯田会長

ありがとうございます。続きまして、農業協同組合小澤委員お願いいたします。

小澤委員

私の方から農業関係についてお話をさせていただきます。コロナ禍で、全体的に農産物の価格は大変厳しいと思います。今年につきましては、コロナの影響で外食産業等がなかなか厳しい中で、特に八千代でも、特産であるお米の値段については今年大変厳しい状況です。昨年令和2年度につきましてはお米の量に関しても、特段多く供給しているわけではありませんが、かなりお米の方の量が余っており、令和3年度は、例年から比べると2割から3割安い出荷になっています。その状況で、農業だけではありませんが、収入の減少が直結して高齢化、そ

れから後継者不足で、新規就農者が増えない、若い後継者もなかなかいないということで、農協としても青年部を通して、若い世代への活用等支援とかもしていますが、なかなか開拓できていない、改善できていないところがあります。

今回連携ビジョンの策定もあり、これからは八千代の農産物についても、新たな付加価値をつけて、地産地消、なるべく八千代市の農産物を八千代市内で消費していただければ、価格の安定にも繋がると考えております。農協としてもできる限り地産地消ということで、地元での販売に力を入れて連携して、これからも続けていければと思っております。以上です。

飯田会長

はい、ありがとうございます。続きまして山崎委員お願いいたします。

山崎委員

農協の小澤委員からもありましたが、今年は米が安かったのと、この陽気で気温が高かったこともあり葉物が記録的な安さになっています。

また、これから冬のハウスの暖房で使用する重油が値上がっており、対する補助金があればと思っております。以上です。

飯田会長

ありがとうございます。それでは畜産協会高橋委員お願いいたします。

高橋副会長

酪農の近々の問題としては、生乳の過剰問題が出て参りまして、コロナ前までは、生産の方が需要に追いついてない状況だったため、生産基盤の拡大ということで生乳の生産量を増加する方向でしたが、コロナによって去年あたりから業務用の需要が落ち、バターと脱脂粉乳の在庫が徐々に溜まっていました。量販店や飲料類に関しましては、巣ごもり需要で、好調でしたが、今年は、量販店や飲料の需要も去年ほどは伸びず、ますます乳製品の在庫が溜まっているという状況であります。今年の夏は北海道も暑かったですけれども、福井は涼しかったため、いつも夏場に暑くなって生産量が落ちるところが、落ちずに生産でき、さらに在庫が溜まっている状況で、このままいくと年末年始、学校給食が休みになり、処理不可能範囲牛乳が出てしまいます。生産調整、生産抑制をしないと駄目かもしれない状況で、酪農家自ら、千葉県の場合は脱脂粉乳を買って、自家消費をして何とか在庫を減らしております。ただ、ここへ来て生産は伸びていますけれども、今の状況を考えますと、配合飼料も去年から比べますと、キロ単価で15円以上値上がって穀物相場が高騰しております。それにつられて配合飼料だけで

はなく牧草も、当然アメリカ等からの輸入が多いですけれども、その値段もかなり上がっています。牧草類に関しましては舟運賃が一番安くしているため、予約をしても、他の荷物がいっぱいになると全然予定通り入ってこない状況で、国内では牧草が不足状態になっております。100%購入飼料だけで牛を飼っている人は経営が成り立たない値段になっており、今は生産過剰ですけれども、離農、廃業する方が出て、来年以降、急減することを危惧しております。

飯田会長

ありがとうございます。それでは市川委員、お願いします。

市川委員

まず観光には国内と海外がありますが、海外の状況はまだかなり厳しいと思います。日本は一時的に収束に向かっておりますが、他の国々はまだ大変な状況で、多分回復するには2024年度ぐらいまでかかると懸念をされています。

今年の冬の北京オリンピックも交流人口の観点では問題点がありました。来年度のワールドカップが一つの基準になるかもしれませんが、今の状態が続く限り海外旅行は厳しい状況が続くと思っています。

一方国内では、2022年の2月から今GoToトラベルキャンペーンを再開する話が出ており、期待はしておりますけれども、宿泊関連等の人にお話を聞くと、なかなかその2019年以前の100%まで戻るには時間がかかるというのがほとんどの意見です。巣ごもりの居心地がいいのかわかりませんが時間もかかるということです。

一方では、例えば、今年世界遺産として、青森北海道秋田県のですね、縄文遺跡が世界遺産に認定されたこと、先島の西表とか或いは徳之島、奄美大島の自然遺産が認定されるということも、一定程度追い風になる部分があります。ただ、もう少し先を見ますと、例えば沖縄に多分大きなテーマパークができるだろうと言われておりますし、スタジオジブリのテーマパークが名古屋にできると言われており、需要を惹起する状況になるかもしれないと思っています。

私は最近、知ったことですがけれども、Milesというアプリをご存知でしょうか。今アメリカで開発されているアプリで、移動するとマイルが貯まるものです。ジョギングをしたり、散歩したり、自転車に乗ったりすることによってマイルが溜まっていくということで、実はこれを日本の全日空もANAポケットというアプリを公開するだろうと言われており、これが全世界に行き渡れば、大変な交流人口のフォローウインドになると私は思っています。これが面白いのは、ジョギングでは10倍のポイントがつきますが、飛行機は0.1倍しか貯まりません。つまり、エコな移動を中心とした、SDGsやサステナブル観光に非常に

則ったものになることも期待されますので、交流人口が爆発的な右肩上がりになっていくことを期待しております。私は以上です。

飯田会長

ありがとうございます。それでは続きまして橋山委員，お願いいたします。

橋山委員

私は人材ビジネス系の仕事，団体に属しています。特に八千代市に限定はしていませんが，主に製造系の派遣や請負の関係です。売上に関しては，2019年の10月ぐらいから，コロナの影響で減少しましたが，昨年7月ぐらいから急激に回復基調になってきています。直近のデータでは，コロナ前の8割から9割ぐらいまで回復しておりますが，逆に人がなかなか集まらず，宣伝広告費や人件費がかさんだり，業績が急に下がったり上がったりと，対応が非常に難しい状況です。また，現在雇用面においては，コロナワクチン接種の有無を派遣先から問われることが多いのですが，個人情報関係で聞きづらい面があり，対応に苦労している企業があると聞いています。以上です。

飯田会長

ありがとうございます。続きまして鈴木委員，お願いいたします。

鈴木委員

先程橋山様から物流施設のお話がありました。車で走っているとやたらに大きい窓のない施設がたくさんあります。特に千葉ニュータウン中央であるとか，八千代市内でも先ほど橋山様がおっしゃったように，上高野工業団地や緑が丘，今度保品にできる等色々な施設があります。

産業としては通常，倉庫業とか運送業としての関わりになりますが，特に外資系不動産が投資として，マルチテナントとして募集するケースが非常に増えてきて，特に雇用面で，大規模なものができる500人ぐらいの新規雇用が発生すると言われていています。これは単に物流，箱詰めして運ぶだけではなく，いわゆる流通加工に色々な作業が伴うため，それだけ必要になるということです。千葉ニュータウンであれだけのものができること，当初はあると言われてきた雇用の需給関係も相当逼迫していると思います。ですから，八千代市としてはそれができることで雇用が生まれる，或いは税収も当然あるわけですが，工業も非常に重要なので，その事業転換，誘致について考えることが重要だと思います。

また先ほど橋山様も防災について言及されましたが，当然倉庫には物があるわけですね。市としてそうした物流事業者と連携協定を結んで，有事の際は避難先

として、あるいは物資の供給、提供について協定を結ぶ等の対応をするといった思いました。以上です。

飯田会長

本当に貴重なご意見をありがとうございます。皆様からのご意見を基に、よりよいものを作っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

先ほどの園芸協会山崎さんからの、原油高による補助金助成金等は、今後可能性はあるのでしょうか。

事務局（三橋主査）

農政課の三橋と申します。現在のところ市として、直接的な生産基盤の経営、ランニングコストに対する支援は具体的にはありませんが、国、県で、強い農業づくり等に対して交付金、補助金の制度がございます。

また設備やそこに係る経費への一部補助もございますので、それらの支援を、我々も精査しながら、可能な限り皆さんとマッチングできればと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

飯田会長

ありがとうございます。

こういう時勢ですので自助努力だけで解決できないこともあります。行政のである程度、そういった支援をご検討いただければ助かります。

他はこの件今までの皆さんからご意見いただきました件につきまして何かご意見ご質問等、相互にありますでしょうか。よろしいですか。

ないようでしたら事務局から何か、この後ございますでしょうか。

事務局（黒澤主事）

次回の審議会の開催時期についてご説明申し上げます。次回は来年2月頃に、令和3年度第3回産業振興審議会の開催を予定しています。開催に当たりましては、事前に日程を調整してから開催いたしたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

また、冒頭でもお話ししました通り、本日の審議会は、八千代市審議会等の会議の公開に関する要領に基づき、会議録を作成し、市役所1階情報公開班及び市ホームページにて公開させていただきます。

なお、発言を要約した形で会議録を作成し、発言趣旨に変わりがないかどうか、事前に確認させていただいてから公開する予定でございますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。事務局からは以上でございます。

飯田会長

はい、ありがとうございます。それでは本件につきましてまた冒頭からの会議につきまして何かご意見ご質問等ございますでしょうか。

それでは本日の会議はすべて終了しましたので以上をもちまして産業振興審議会を終了いたします。どうもありがとうございました。

————— 閉 会 —————